

令和5年度岩見沢市子ども・子育て会議

えみふる ふぁいるに関する専門部会

日 時 令和6年2月19日(月)午後6時00分

場 所 であえーる4階 会議室1

1 開 会

2 議 事

(1) えみふる ふぁいるの配付状況

(2) 令和5年度の取り組み

1 市民への周知

2 関係機関における「えみふるふぁいる」活用の促進

3 新たな活用の機会の開拓

(3) 今後の取組の方向性

1 保護者の意識を維持するために

2 支援者の活用の意欲の向上のために

3 その他

4 閉 会

事務局	1 開会(18:00)
事務局	2 議事
A委員	それでは、さっそくですが、議事に進みます。 (1) えみふる ふぁいるの配布状況について、事務局から説明してください。
事務局	えみふるふぁいるの趣旨について、初めてご参加いただく委員の方もいらっしゃると思いますので、概要について説明させていただきます。 えみふるふぁいるは、子どもが生まれてから高校を卒業するまでの各ライフステージにおいて、成長や健康、発達などを記録することができる成長記録ファイルとなっています。令和元年9月の1歳6か月健診から配布が開始されてから、4年目となります。市内在住の18歳以下の子どもを対象としており、保護者からの求めがあれば子育て総合支援センターや教育支援センター、市役所福祉課、市立病院小児科の窓口でも配布しております。 配布後の保管は子ども及び保護者となっています。

	<p>②活用の流れですが、活用の移り変わりを3つのステージに分け、目的やアプローチの方法について示しています。「成長記録を収めるファイル」として、スタートし、後々有用になるように成長の記録を綴っていくことで、発達などで心配なつまづきがあった時に、このファイルを持って母子保健や福祉、教育、医療など様々な機関で相談や支援を受け、「タテ・ヨコの連携」を支える1つのツールとして活用されていくような効果が期待されています。</p> <p>続いて、えみふるふぁいるの配布状況についてご説明致します。</p> <p>配布状況の詳細は右上の表のとおりとなりますが、出生数の減少とともに配布数も減少しております。令和5年度のR6.2.14時点での配布数は、364冊です。</p> <p>1歳6か月健診での配布数は、保健センターの欄にあります237冊で、全体の65%を占めています。</p> <p>また、子育て総合支援センターでは34冊を配付し、主に1歳6か月以前のお子さんへの希望や今年度の就学時健診を受けるにあたって、申し出のあった方となっています。</p> <p>3歳児健診では、親が書いた問診票のコピーを渡してファイルに綴るようお伝えしていますが、その際にファイルを無くされて再配布を希望した方や1歳6か月以降に転入された方、兄弟分として配布した冊数として、73冊となっています。</p> <p>そのほか福祉課については、ファイルを持っていない世代、転入者等への配布の数となります。</p> <p>ことばの教室については、教室を利用する際に作成する計画書をファイルに綴ってもらうよう保護者に伝えており、年を追うごとに利用者がファイルを持っている世代と変化してきております。</p> <p>配布状況については以上となりますが、配布の主となる1.6か月健診以外でも必要とされる方へのファイルの配布と声掛けについて、引き続き関係機関へ協力をお願いしていく予定です。</p>
A委員	<p>ありがとうございます。何かご質問、ご意見ございますか。</p> <p>よろしいですか。質問が無ければ、次に議事の2.令和5年度の取り組み、3点ありますので、順番に進めていきたいと思っております。</p> <p>最初に、1.市民への周知について説明をお願いします。</p>
事務局	<p>まず、1.市民への周知について、1-1 3歳児健診にて、問診票のコピーを綴ってもらいファイルの利用について声掛けとアンケートを実施しました。</p> <p>令和5年4月～令和6年1月に実施した3歳児健診受診者299名を対象に、アンケートを実施しました。グラフには、令和4年度と令和5年度の結果を比較しています。</p>

	<p>“Q1 えみふるふぁいるを持っていますか”という質問に対し令和5年度の結果は69%が“持っている”27%が“どこにあるかわからない”4%が“転入者・もらっていない”と回答しました。令和4年度は令和5年度と比較すると大きな変化はありませんが5%上昇しています。</p> <p>“Q2 えみふるふぁいるを持っている”と回答している人のうち、ふぁいるを利用していますか という問いに対して、令和5年度は34%が利用している 66%まだ利用していない という結果となりました。 ファイルの利用率はいまだに少ないですが、令和4年度と比較すると、微量ではありますが、9%増加しています。</p> <p>“Q3 (複数回答) ファイルを利用していると回答した人のうち活用方法を教えてください”との質問については、結果は表のとおりですが、令和4年度と比較して、保育園や幼稚園での活用の部分が大幅に増えており、この後ご紹介しますが、保育園や幼稚園での活用促進の取組が影響しているのではないかと考えます。</p> <p>令和4年度との比較として、ファイルを利用している実数はいまだに少ないですが、アンケートや3歳児健診の声掛け等、就学後まで持ち続けてもらうよう引き続きアンケートを実施し、利用者の声を拾いながら、えみふるふぁいるの活用状況について、検討していきます。</p> <p>続いて、1-2 市内イベントでの周知について説明いたします。</p> <p>今年度、新たな周知の取組みとして、市内で行われるイベントに「えみふるふぁいる」をPRするブースを設けて、より多くの市民の方にファイルの存在を周知してまいりました。</p> <p>はじめに、北海道教育大学岩見沢校主催の「あそびプロジェクト」でのPRです。10月7日～8日に岩見沢校で開催されたイベントにおきまして、スポーツ文化専攻の森田憲輝教授と北大 COI-NEXT に協力いただきながら、体力測定の出展の一画に掲示をさせていただきました。</p> <p>なお、2日間の来場者数が176人であったと伺っております。</p> <p>次に「いわみざわ健康まつり」でのPRです。であえーるの立体駐車場の1階にあります健康ひろばを会場に9月26日～10月1日までの6日間行われました。そこで、「あそびプロジェクト」と同じようにPRブースを設けました。このまつりでは、780人ほどの市民が訪れました。</p> <p>令和5年度は、2か所でのPRのみとなりましたが、今後はさらに多くのイベントでPRを行ってまいりたいと考えております。</p>
A委員	<p>ありがとうございます。何かご意見ございますか。</p> <p>あそびプロジェクトでのブースはどんな取り組みをしましたか。</p>
事務局	<p>大きな体育館で、体力測定と赤ちゃんの誕生の流れを展示しているブースの一角に、えみふるふぁいるの見本を置いて活用方法等をPRさせてもらい</p>

	ました。
A委員	コミュニケーションなど取りましたか？
事務局	職員が常に常駐していたわけではないので、ただ置いて見てもらうだけでした。
A委員	ありがとうございます。 アンケートの中で、保育園や幼稚園での利用という部分が多くなった理由は分かりましたが、成長の記録が減った理由は分かりますか。
事務局	詳細には分析できていませんが、昨年度まではアンケートをもらう際に、直接使用方法等を聞いたうえでアンケートに記載できていましたが、今年度から、アンケートについては保護者が記載した紙をもらうという形となったため事務局側の意図が伝わりきらなかった部分があるかと思います。
A委員	他のご意見ありませんか。なければ、議事 2. 関係機関における「えみふるふぁいる」の活用の促進について、事務局より説明をお願いします。
事務局	<p>「えみふるふぁいる」は、保護者の活用もさることながら、関係機関＝子どもの支援に関わる方々の協力が不可欠なものと考えています。事務局では、毎年、関係機関（学校・療育機関・幼稚園保育園）に対して、活用推進の活動をしています。今年度の取り組みは資料 2 をご覧ください。</p> <p>2-1 学校向け説明会</p> <p>学校向けは令和 6 年 1 月 19 日に、説明会をおこないました。岩見沢市では、「特別支援教育推進委員会」という市内小中高の特別支援教育コーディネーター（またはそれに該当する役割の先生）が集まる会が開催されています。昨年度同様、今年度も、この委員会で「えみふるふぁいる」説明の時間をもらい、お話をしてきました。その際、配布したものが資料 A 委員です。</p> <p>特別支援教育コーディネーターの先生方は昨年度とほとんど入れ替えがなかったとのことで、多くの方がえみふるふぁいるの説明会に 3 度目の参加となります。このことから、学校向け説明会では、「えみふるふぁいる」とは何かという基本情報はおさらい程度にとどめ、実際に「えみふるふぁいる」と特別支援教育はどう関係するのか、今はまだ全員もっている世代が学校に入っていないが、いよいよ間近になってきていること等をお伝えするようにはいたしました。特に今回は、プレ実施した就学時健康診断の件を入れたことをお伝えし、学校の先生方が実際の運営に携わっている事業のなかにも「えみふるふぁいる」が関わってきていることを実感してもらえるようにお話したところでした。</p> <p>2-2 療育機関向け説明会</p> <p>療育機関向けは令和 6 年 2 月 15 日に、説明会をおこないました。こちらでも、「地域療育推進協議会事業所部会」という市内の療育機関全 20 か所が集まる会が開催されており、その中で「えみふるふぁいる」の説明会を実施し</p>

ました。このときの資料が資料Bです。

療育機関の方も、毎年説明会をおこなっていますので、「えみふるふぁいる」の基本的なことは知っている前提で、児童療育の流れ全体の中にも「サポートファイル」の取り組みが重要視され、始める自治体が増えていることや、療育関係者が「えみふるふぁいる」への協力（個別支援計画書を綴じるよう声をかけること）をすることが、対象の子どもの将来に役立っていくことになることをお話しています。

療育機関向け説明会では、毎年同じ項目のアンケートもおこなっていますが、「面談でえみふるふぁいるの持参を呼び掛けている」「個別支援計画書を綴じるように声かけしている」といった声は、少しずつですが増えてきています。

療育機関では、個別支援計画書を半年に一度必ず作成して保護者に渡していることがわかっているので、「えみふるふぁいる」のために何かを作ってもら必要はなく、綴じておいてもらうよう声をかけることが重要だと考えています。

2-3 園での活用調査

幼稚園保育園には、昨年度は説明会を実施しましたが、園の中でどう取り入れていく余地があるのか、事務局でも不明なことが多く、今年度は説明会ではなく調査を実施しました。

子ども発達支援事業でおこなっている市内の園を回る巡回相談の際に、主任さんなど保育の中心となる先生に直接インタビュー形式をとりました。幼保園については、これまで紙のアンケートをしても、こちらの聞き取りたいことが聞き出せないことが多かったので、今回直接インタビューとしたのですが、これによって現場の主任さんから「知っているけれど、なんだろうと気になっていました」などの話が聞けて、「こうやって使っている園もありますよ」とお答えすることで、「なるほど、じゃあやってみようかな」と前向きに考えていただけるという予定外の利点もありました。

インタビューの結果、「えみふるふぁいる」の活用の実態は、やはりまだまだ「活用していない」が大半です。少数派ではありますが、「活用している」園の活用方法については、資料Cをご覧ください。

調査内容についてですが、A委員幼稚園では新入園児の願書受付面談で持参を求めています。3歳児健診での増加の要因はこの部分が考えられます。在園児の個人面談でも活用しており、健診での問診票の“保護者が気になっていることを書く欄”や“子育ての協力・相談環境を書く欄”などポイントを絞って見せてもらっているとのことでした。

B幼稚園では、こちらも新入園児の願書受付面談でファイルの持参を求めています。A委員幼稚園と同じように“保護者が気になっていることを書く欄”や“保護者の心理的負担について書く欄”を注意して見るようにしてい

	<p>るとのことでした。何も手がかりがない状態ではこうした内容は聞きにくい ため、手元にファイルがあると話が進めやすいとの回答でした。</p> <p>C 保育園では、3 歳児健診が終わった園児にファイルの持参を求めています。 問診票の“保護者の悩み事”を参考にしており、1 歳半健診と 3 歳児健診との 違いも参考に行っているとのことでした。健診の内容について、保護者に尋ねても 「特に・・・」と言われてしまうので、「こういう話はできましたか?」「心理の先生 でしたか? 言葉の先生でしたか?」と保育士さんが具体的に聞いているとのこと でした。</p> <p>このように、活用している園が少しずつ増えている一方で、「活用してみたら扱 いきれずやめてしまった」という園もあることや、「持ってきてもらったところで何 も入っていない」という園、「使い方のイメージがわからない」という園もあるとい う結果でした。</p>
A 委員	<p>ありがとうございます。どこの機関でも、えみふるふぁいるはお持ちです かという声掛けをしてもらうことが一番大事です。ファイルを持っていない、関 心が無いという声が多いかと思いますが、そういう時はぜひお持ちくださいだ とか声掛けていただけると良いです。そういった文言を説明の中に加えていた だいた方が良いでしょう。何かご質問ありますか。</p>
B 委員	<p>ファイルの活用を辞めた園についてですが、ファイルの使い方の例として事務 局側で提示してした“問診票のコピーに記載してある保護者が記載した文言を 話のきっかけとして活用すること”について、保育園側が保護者に聞かないとい けないというプレッシャーになっていると思います。私自身の話ですが、子ども 達が幼稚園・保育園の年代の頃の話は覚えていないくらい忙しかったです。何 かを書いている暇は無かったので、幼稚園や保育園には、あまり無理をしない でとアナウンスをしても良いのかもしれませんが。言葉の端に、えみふるふぁ いについて伝えてもらえると嬉しいというニュアンス程度で良いと思います。</p> <p>私自身も最近病院で少しずつファイルを配れています。理由としては、私自身 に少し余裕が出てきたからです。余裕が無いとできないかもしれません。</p>
A 委員	<p>“渡す紙をファイルに綴っておいてね”や“ファイルを相談機関にもってい けば、対応してくれる人が必要な情報を見ってくれるからファイルに綴って おいてね”等、助言ではなく声掛けが大事です。情報を探されるのも嫌な人 もいますし、支援する側もどう活用すればよいかと悩んでしまったり、何か言 わなければいけないのではないかと感じてしまうかもしれません。大事なこ とは、何かあった時にファイルと一緒に見て、思い出すきっかけになれば良 いということです。現時点では活用している人は少ないですから、ファイル の存在を知ってもらう、思い出してもらうことが大事です。</p>

事務局	引き続きそのような視点を持ちながら、声掛けを行っていきます。
A委員	では次にいきます。3. 新たな活用の機会の開拓について、説明をお願いします。
事務局	<p>現在、えみふるふぁいるには1歳6ヵ月児健診、3歳児健診の問診票をすべての人に綴っていただいています。小学校で毎年おこなう「就学時健診」でも問診票のコピーが保護者に手渡されており、これも、えみふるふぁいるに綴ってもらう機会にできないかという声が令和4年度からあがってありました。</p> <p>えみふるふぁいるを岩見沢市のすべての子どもに配り始めてから4年が経ちますが、令和6年10月の就学時健診を受ける子どもたちが、全員ファイルを持っている初めての世代になります。</p> <p>今年度は、まだえみふるふぁいるを持っているお子さんは少数ですが、本格導入の前のプレ導入として、「えみふるふぁいるのご紹介」というチラシを、就学時健診の案内文書と同封しました。それが、資料Dになります。内容としては、就学時健診の問診票の控えを綴ってもらえることのご案内と、小学校での使い方の例、配布場所のご案内となります。次年度も、ベースは同じ内容のチラシを、同様に配布したいと考えています。</p> <p>また、例年通り、就学時健診当日は問診票の写しを保護者控えとして手交しております。</p> <p>令和5年度で、チラシを見てファイルを取りに来てくれた人は、子育て総合支援センターで12名でした。どのかたも、就学児健診の問診票を挟むと良いですよ、通知表を入れるポケットがありますよとご案内すると、「あ〜！」と感心したような反応で、使い方の具体的なイメージを持っていただけるような感触がありました。</p> <p>次年度の本格導入に向けては、会場の受付の近くに、問診票の写しをすぐに綴ってもらえるように作業台を設置し、写しを手交する際に「あちらで綴じられますよ」と声をかけたいと考えています。チラシにも、「会場で綴ることもできますので、お持ちの方はご持参ください。」と持参を呼びかける文言を追加する予定です。作業台の設置場所は学校のつくりによって、検討する必要があるところです。</p> <p>また、これまではえみふるふぁいるを持っている世代が未就学児だったこともあり、現在は就学児向けのオプションシートが少ないですが、相談の記録や成長曲線など、時期に関係なく使い続けられるシートもあります。ファイルのオプションシートを健診時に配布できれば、就学後のファイルの登場機会も増やしていけるのではないかと考えています。そのためには、就学児向けのオプションシートはどんなのが良いか検討する必要があります。就学時向けのオプションシートについては、資料2 今後の取組の</p>

	方向性にてご協議いただければと思います。
A委員	ありがとうございます。何かご意見ありますか。
J委員	ことばの教室の取組のことでお話したいと思います。半年に1度、個別の支援計画を作成して保護者にお渡ししますので、ファイルに綴ってもらうよう声掛けをしています。最近、そのお子さんに対し発達検査をすることがあり、その結果を記載した保護者向けペーパーもファイルに綴るよう伝えていきます。以前、その方が他の事業所に通っていて、えみふるふあいるに綴じてある検査結果を事業所や幼稚園と共有するということができました。ですから支援者としては、えみふるふあいるに綴じる書類は意外とあるのではないかというのが私の印象です。支援者側もえみふるふあいるに綴じようという気持ちをどう作るかということかなと思いました。
A委員	活用していただいているのですね。他にありませんか。
G委員	事業所を利用しているお子さんはたくさんいて、通常学級の中にも事業所に通っているお子さんもいます。事業所ごとの特色もあり、事業所でどのような支援が行われているのかについて学校側では分からないことが多くあります。懇談の折に、えみふるふあいるを持ってきてもらえれば事業所が行っていることや支援の方針がわかってくると、親御さんとの話もしやすくなるかと思います。また、お子さんの中には投薬を受けている方も多くいます。薬の種類は何で、いつから始まって、どのくらいの量が投薬されているのかについて把握できていないことが多くあります。病院側と学校側が連携を取れていれば良いですが、市外の病院に通っている子も多くいますから、情報共有ができていないことが多いです。かといって、病院側から学校側に連絡が来るといこともあまりありません。お子さんの現在の状態を把握するうえでも、医療的な情報が記載してある薬剤情報提供書は、学校の現場では必要とされていると思います。えみふるふあいるに、そういった情報が入っていれば、すごく助かります。親御さんに何の薬を飲んでいるのか尋ねても、お医者さんからインフォームドコンセントを受けているはずですが、よく分からない、忘れちゃうということがよくあります。
B委員	薬剤情報提供書は、親御さんは受診カードと一緒にポーチに入れていることが多いです。本当は、えみふるふあいるに綴れる書式の薬剤情報提供書があれば良いですが、誰がそれを追加で作成するのかという問題もありますから悩ましいです。
G委員	子ども達の日中の活動を見ていると、お薬が合っていないのではないかと思う例が過去にありました。活動的だったお子さんが、ぼーっとしてしまっていて、原因は薬を飲んでいるからなのか、生活習慣なのか、お家で何かあったのかというのが分かるヒントになるかと思います。お薬の話を親御さんに聴いても、何かの漢方ですという答えしか返ってこない場合もあります。

B委員	<p>色々な種類の漢方がありますから、そうなる可能性は高いと思います。お薬は、お薬手帳というのがありますから、薬剤情報提供書とお薬手帳と受診カードを一緒にポーチにいれている親御さんが基本的な行動パターンです。それをえみふるふあいるに引っ張っていくにはどうしたら良いかというのは悩みどころです。薬剤情報提供書はネットに掲載されていますから、印刷してあげてファイルに綴ってあげることができますが、市内の先生にまで広げるのは難しいかと思います。えみふるふあいる内のシートに薬の記載が書いてあれば良いでしょうか。一言書いてあれば、次回お薬手帳を持ってきてくださいと声掛けできるかもしれません。最初からできなくても、2回目からは声掛けができるようにできるかもしれません。</p>
G委員	<p>服薬のことを考えると、日中活動の様子はすごく大切になると思います。お薬手帳でも、えみふるふあいるでも、どこかにあれば良いですね。支援で関わる機関が多様化しています。学校と病院、福祉、事業所等、どんどん増えていくなかで、改めて連携と言われても難しい状況です。その中で、お薬のことや事業所の情報が書いてあれば、支援のヒントとなります。</p>
B委員	<p>分かりやすく、手間にならないのはどうしたらよいでしょう。</p>
G委員	<p>親御さんがしっかり覚えていければ良いでしょうが、そういう訳にもいきませんから。</p>
B委員	<p>せめて、親御さんに渡した資料が手元に残るようにしていかなければならないと思います。たしかに、お薬を巡るトラブルは多いです。</p>
A委員	<p>先ほど、チェックシートという話が出ていましたが、そういうチェックもあれば良いかもしれません。</p>
B委員	<p>チェックシートに、“エピペンは持っていますか”や“抗スタミン薬を持っていますか”や“インスリン打っていますか”というのがあると良いですね。</p>
事務局	<p>チェックシートには、より具体例があると良いということですね。自分に当てはまる項目のものをチェックして、ファイルに綴ってもらおうということですね。</p>
A委員	<p>具体的な情報が入ってなくても、ヒントとなることがファイルに入っていれば良いです。このファイルの根本的な軸として、どのような人が関わっているかのヒントが得られるかが大事になってきます。また、オプションシートは、全員に当てはまらなくて良いわけですから、色々なパターンがあっても良いです。</p>
事務局	<p>検討させていただきます。</p>
A委員	<p>就学時からのオプションシートについてとありましたがいかがでしょうか。</p>
H委員	<p>中学生になると、色々なことを経験して色々な資料を貰って入学してきま</p>

	<p>す。今後このファイルが普及して、令和7年度の子ども達が中学生になった時に、特別支援学級に限らず通常学級にも支援を必要としている子達がいま すから、お話で出たような書類が綴られてくるイメージはできました。個別 支援計画は前期と後期に保護者と内容を確認し、コピーをお渡ししていま す。今は共通の綴る場所がありませんから、どこに保管されているかは分か りません。いずれファイルを全員が持っていれば、このファイルに綴っても らうということはできます。綴ってもらうということを考えると、絶対に穴 を開けて渡さない、このファイルに綴るというステップにはいかないと思 いました。このファイルが普及していけば、中身を管理できていない親御さ んもいらっしやると思いますから、内容が更新されたので新しい書類に交換 しますねといった会話もできるかもしれません。高校に進学した後も、今ま での支援の流れというのは必要となっていく書類ですので、中学校で活用し ていくイメージを膨らませていました。現在も、親御さんから事業所の書類 をもらった時は、コピーして学校で保管しているファイルに綴っています。 いずれ共通のファイルとなれば、親御さんが中心となって事業所等の知りた い情報を学校側で得ることができますから、このファイルに綴っていくとい う習慣が普及してほしいです。</p>
A委員	ありがとうございます。他にございますか。
K委員	療育手帳の兼ね合いで、市の窓口で対応しているのですが、えみふるふあ いるの普及がまだ途中というところで、年齢層が高い方たちが対象となると 通知表を紛失している方が多くいます。小学1年生から6年生まで全て揃っ ているという方は少ないです。チェックシートに“通知表をファイルに綴ろ う”と記載がありますが、小学1年生、2年生、3年生…と全学年のファイ ルを綴ったかのチェック項目を増やして欲しいです。
A委員	通知表は意外と大切です。大人になってから、つまずきに気付いた場合な ど、特に通知表は大切になってきます。
K委員	1年生はあるけど、3年生は無くしたなどの場合も多いです。母子手帳も 同じように大切です。
A委員	言葉の教室に通う時のチェックシート、放課後デイに通う時のチェックシ ート等、その子に合ったチェックシートを作成していく必要があります。
事務局	チェックシートに限らず資料にも案として記載しましたが、スタンプを作 成して“えみふるふあいるを持ってきてね”と書類に押しってもらうことで、 支援者側も忘れずにえみふるふあいるに綴ってもらうという認識をもっ てもらうことに繋がるかと思います。
A委員	その繰り返しが、学校や事業所などの支援を繋ぐきっかけになりますね。
I委員	お話を聞かせていただいて、声掛けや配布、イベントで周知したりなど、 地道な活動が功を奏して、じわじわと広がっているのかと思います。これが

	<p>拡大していったスムーズな引継ぎに役立っていくと思いますから、ぜひこれからも継続して取り組んでいただきたいと思います。前回の会議で話題に出ているかもしれないですが、デジタル化を検討されているのかについてお尋ねしたいです。全て書類を入れるとかさばっていくので、スマホで管理できれば良いのではないかと思います。例えば、通知表が返される時期に“ファイルを綴りましたか”という通知をA委員Iが教えてくれれば思い出すきっかけになるかもしれません。皆さんスマートフォンは忘れずに持っていくと思いますが、ファイルは忘れてしまう可能性が高いです。データをもらうには、QRコードを読み取れば取得できることや、市が出している情報はすぐ手に入るといった活用ができれば、可能性は広がるなと思いました。</p>
事務局	<p>デジタル化については、このファイルを検討した際もスマートフォンは普及していましたので、ご意見はあったかと思いますが、現状では紙で配られる書類が多いので、当面はこのファイルを活用していきたいと考えております。10年、20年後は、社会の状況も変わってきますから検討していきたいと思います。</p>
A委員	<p>デジタル化について意見はありましたが、デジタルに依存してしまう可能性があります。例えばLINEを使っていれば、LINEを使わなくなる時代になった時に、どうするのかという問題もあります。また、ファイルに綴っていくという作業も子どもや先生たちとの関わりを生んでいきますから、紙にしようという流れがありました。</p>
事務局	<p>“えみふるふぁいるのお知らせ”というスマートフォンへの通知は、別の何かを検討している段階ですので、形になった場合は説明させていただきます。</p>
A委員	<p>就学後のオプションシートの案についてはどうでしょうか。子育ての情報、心理の情報など、どんどん追加して欲しいです。</p>
事務局	<p>今までの会議でも頂いた案もありますし、基本シートについてもいったん見直しをしていきたいと考えています。そのためにご意見を頂ければ、検討をしていきたいです。</p>
A委員	<p>そのために機会を作るということですか。</p>
事務局	<p>そのタイミングが来年なのか、再来年なのかははっきりはしませんが、基本シートオプションシート含め、見直しをしていきたいです。</p>
A委員	<p>こういうのは、考える時間を作ってやらなければ進まないですから、ワーキンググループ会議のようなものを行ったほうが良いかもしれません。</p>
事務局	<p>承知いたしました。検討致します。</p>
A委員	<p>他になければ、3 その他に進む前に、本日の議事全体を通して、何かご意見はありませんか。 えみふるふぁいるについては、まず存在を知ってもらうことを地道にやっ</p>

	ていくしかありませんね。 他になければ、3 その他 に進みたいと思います。 皆さんからお伝えしたいことなどあればご発言いただきたいと思います。
	3 その他
事務局	閉会 19時30分